

テーマ【凜々子で実践～だれでもすらすら書けるようになる作文指導】

岡山県倉敷市立緑丘小学校

余傳 吉恵 先生

2年生 28名 国語科

■ 実践のきっかけ:

本校では、昨年度より市の指定を受け、国語科を中心とした「PISA 型読解力を高める授業作り」の研究に取り組んでいる。本年度は研究主題を「学習したことが生きてはたらく力になる授業の創造」とし、“身につけた力を活用する力の育成”に重点的に取り組んだ。

2学年で取り組む一人一鉢栽培に「凜々子」を活用し、栽培活動も作文のテーマに取り入れることにした。子どもたちが五感を使って観察したことを「だれかに知らせたい」という「書く意欲」につなげ、「書く力」を高める実践を積み重ねることにした。

■ 実践のねらい:

- 観察して発見したことを、友達に分かりやすく書くことができるようにする。
- 知らせたいことが相手に伝わるように、簡単な組み立てを考えて書くことができるようにする。

■ 取り組みの概要:

●導入時に、収穫したらどんなことをしたいかを話し合い、「おいしいトマトを育てみんなでスパゲティーにして食べよう」を目標にした。目標が明確になったことで、子どもたちは栽培に意欲的に取り組んだ。



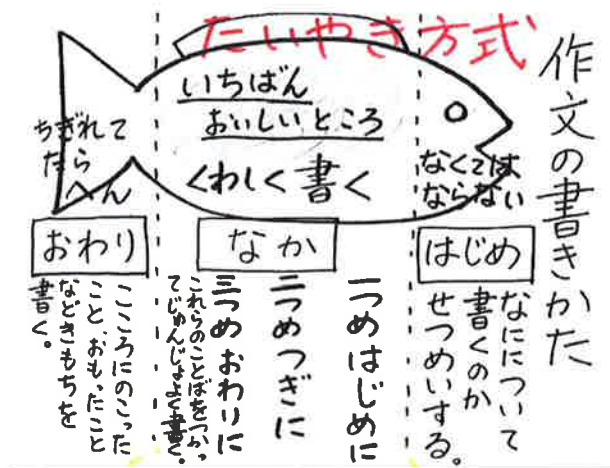
●作文指導の初期段階では、とにかくたくさん書くことが大切。テーマは、“自分が大切に思っているもの・身近なもの”とし、誰に何を伝えるか、書くめあてをはっきりさせる。文章を組み立て、構成を意識させる。友達の作文を読んで、優れた表現を取り上げ称賛する、という指導を繰り返し行なった。

その題材として、6月頃の「凜々子」は成長の変化が多く見られるため、最適であった。

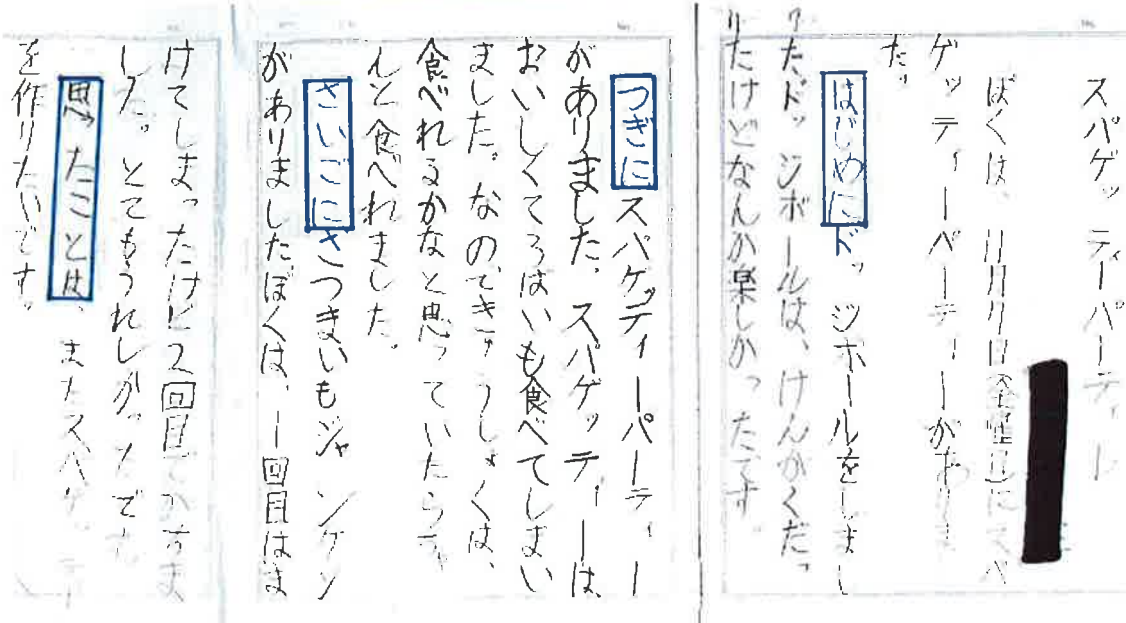
●栽培活動の夏休みには鉢を持ち帰り、保護者と栽培を続けた。

夏休み明け、家庭での手伝いや、料理したことなどを全員が発表した。

発表の仕方は、作文で指導してきた「たいやき方式」(下)で「はじめ」「なか」「おわり」の構成に気をつけることを確認。友達の発表を聞いて、感想をのべ、お互いのよさを認め合った。



- 収穫後は、トマトソース作りを行い、その後に保護者を招いてスパゲティパーティーを行った。これらの活動も、めあてを持って書く練習のテーマとした。



■ 取り組みによって得られた成果:

- 児童が愛情をもって育てている「凜々子」を題材に、段階を踏みながら作文の指導を行なったことで、書くことが楽しいと感じる子が増えた。書きたいことを全て洗い出し、配列し、構築してから書くという過程を踏んだことで、子どもたちは文章の構成を考慮して書くことができるようになった。春から使ってきた作文ノートは、2冊目になった。1冊を書き上げたことは、児童にとって大きな自信となっている。
- 野菜の世話をしたり、それを使って学習したり、味わったりすることで、野菜嫌いがなくなった。
- カゴメからもらった「夏休みガイドブック」を見ながら保護者も一緒に栽培したり、調理パーティーに参加したりと楽しい思い出ができ、保護者、子ども、教師の人間関係がより密になった。

■ モグモからのメッセージ:



作文を読んでみると、どれも2年生とは思えない文章力！接続詞や「キラキラ」「ざらざら」等、“ようすを表す言葉”なども上手に使って表現しているよ。五感を使って、ていねいに観察したことで、「凜々子」の微妙な変化もきちんと発見することができたんだね。観察を通して感じたみんなの驚きや喜びがとってもよく伝わってきたよ！

栽培活動でも、最初に目標をみんなで話し合っ決めて決めたことで、意欲的に栽培に取り組めたね。夏休みに鉢を持ち帰って、家族と一緒に栽培を続けたことが、その後のスパゲティパーティーの大成功にもつながっているよ。